

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170501308), 法人名 (有限会社 レストケア), 事業所名 (グループホーム びーぶる (A)), 所在地 (札幌市南区石山東3丁目3番8号), 自己評価作成日 (平成29年1月11日), 評価結果市町村受理日 (平成29年3月7日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域との交流を行っている。ホーム内行事への参加も増えて来ており、近隣小学生の慰問や町内会行事への参加、避難訓練等も多数参加頂いている。
・看護師が常勤しており、身体面、精神面等の健康管理を行っている。
・スタッフは利用者とともに支え合い生活をしている

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanitrue&JigvosyoCd=0170501308-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年2月15日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はバス停から近く、2階建て2ユニットで自然に囲まれた閑静な住宅街に位置している。代表者は複数の福祉事業を展開しており、利用者が最期まで安心して暮らし続けられる居場所として開設している。地域とは、祭りなど相互の行事に交流がある。近隣の小学校や福祉学園の生徒との交流も楽しみ事の一つで、よさこいソーラン踊りを見ていた利用者が鳴子を振っている姿は職員の喜びとなっている。町内会主催の「雪あかり」に参加出来ない事業所に写真を撮って届けてくれ、また、キャンドルのプレゼントがあったり、事業所向けに町内会連絡網を策定するなど、理解と支援を得ている。家族の協力を得ながら外出支援に重きを置き、大型公園、桜・紅葉観賞、観光地の連立した鯉のぼり見物など、五感刺激に繋げている。外出先で食事を楽しんでおり、参加出来ない利用者には好みの弁当を用意し、日常に変化を付けるなど職員の心配りが随所に見られる。職員は、利用者を人生の先輩として尊重し、寄り添いのケアサービスに努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念と各ユニット毎に独自の理念を作り、毎朝申し送り時に読みあげ確認をし、常にミーティングを行っている	法人理念を共有し、さらにユニット毎に利用者本位のケア理念を策定し実践に努めている。事業所内に理念の掲示や名札の裏に印字した理念の携帯、申し送り時に理念の読み合わせなど、職員の共通認識に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内行事や町内清掃への参加、近隣小学校等の慰問や学校行事への参加、又ホームの行事、避難訓練等に参加頂いている	事業所の夏祭りやクリスマス会、敬老会には、町内会の回覧板で参加を呼び掛けている。町内会の盆踊り、近くの小学校の運動会見学、また、来訪の小学校や福祉学園の生徒達との交流は利用者の生活意欲になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症の方の理解と支援を一緒に話し合っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動及び近況報告を行い、参加者と今後の取り組みの意見交換を行い、サービスの向上に活かしている	会議は複数の町内会関係者、包括職員、複数の家族、利用者の出席を得て、年6回開催している。活動報告後の質疑応答や、出席者の各立場での活動状況が寄せられている。警察署員の講話を企画し、防犯対策に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市、区のグループホーム連絡協議会へは必ず出席し情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは法人対応もあるが、市や区主催の会議への参加、利用者の様子把握で来訪の担当職員との情報交換、認定更新時には担当窓口を訪れるなど、良好な関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し毎月勉強を行っている。禁止の具体的な行為を理解している。玄関は開錠している	禁止の対象となる11項目を含んだマニュアルを整備し、共有空間に身体拘束廃止理念を掲げている。職員は、身体拘束廃止委員会による勉強会で、具体的な行為やその弊害について学び正しい理解に努めている。現在、拘束の対象となる利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、毎月勉強を行っている。職員全員が互いに声掛けし、注意を払い防止に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い必要性を理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前と契約時に文書にて説明し理解して頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に話を伺ったりアンケートにて意見、要望を運営に反映している。またホーム玄関に意見箱を設置している	利用者の日常は、家族来訪時はもとより毎月のホーム便りや、年3回手紙や写真の送付等で報告している。利用者や家族との関わりから出された意見は、改善に向けて職員間で検討し、運営やケアに活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を開催し職員との意見交換や提案を運営に反映している	代表者は職員会議や運営推進会議に出席し、事業所の全体像を把握している。職員のストレス対策としてアンケートを取り意見や要望を収集し、運営への反映や就業環境の整備に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働ける様努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に応じた内外の研修参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や同主催の勉強会や研究発表等に参加し、交流を通しサービスの質の向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心して話しやすい雰囲気を作り信頼関係を築ける様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安に思っている事等傾聴し信頼関係を築ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族などの意見を尊重し必要としている支援を見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活のペースを尊重し共に生活し支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に状況報告をし共に本人を支え合う関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取次ぎや馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れないように努めている	利用者にとっての馴染みの場所や大切な人との継続しての繋がりは薄くなっている。職員は、家族や知人の来訪時に居室で寛げるよう配慮している。馴染みのデイケアへの通所や、商店での買い物支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人のペースを尊重し、利用者同士が不安がないように支え合える様努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も本人、家族との関係を大切にし、相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望や意向の把握に努めている	職員は、利用者にとってどのようなケアが必要なのかを考慮して支援している。好きなものを食べたいなど食事や入浴、外出等の要望に応え、満足感が得られる支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴、生活環境の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペースで過ごせるように心身状態の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望、意向を聞き、介護計画を作成し毎月カンファレンスを行っている	日頃から利用者や家族に、どの様に暮らしたいのかを問いかけたり、汲み取っている。介護計画見直し時は、医療関係者の意見や職員の気づきノートを参考に、職員全員の意見を反映して作成している。	介護計画と個別の記録の連動性が十分でないため、計画の実践が記録簿で容易に確認できる書式の工夫を検討しているので、その取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に日々の様子やケアの実践を記録している。介護計画は職員間で情報共有し見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望や状況に応じ柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校の慰問や町内会ボランティアの協力を得て、本人が心身豊かに生活出来るように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を受け訪問診療や受診を行っている	殆どの利用者は、月2回、3カ所の医療機関による訪問診療を受けている。専門医への受診は基本は家族支援だが、困難なため職員が同行している。看護職員による毎日の健康チェックも行われ、健康状態は関係者と共有している	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行い、異変時や気づきを看護師に伝え、適切な指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を密にし常に情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について説明し、家族とかけつけ医と十分な話し合いを行い全員で方針を共有し支援に取り組んでいる	入居時に文書で重度化や終末期の対応指針を説明している。看取りを経験しており、状態変化時は改めて意向確認を行い、同意を得て主治医、家族と情報を共有し、支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり定期的に勉強会を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成している 年2回以上の避難訓練を行い、常にシミュレーションを行っている 地域の協力を頂いている	年2回夜間想定避難訓練を計画し、1回目は消防署、防災コンサルタント、地域住民の協力を得て実施している。2回目は火災や水害、停電想定を含んだ自主訓練を行っている。非常時持ち出し袋を用意している。	災害時備品の備えや避難場所は法人対応となっているが、事業所独自の飲食料品など備蓄品の充実、自然災害の実践的訓練により、さらなる災害対策への取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー委員会を設置している 毎月勉強会を行い、互いに注意し声掛け等に対応している	職員は日常業務や勉強会等で、利用者への対応のあり方を学んでいる。言葉遣いに気をつけ、排泄や入浴時は同性介助を基本としている。個人情報の取り扱いも適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を大切にし、レクリエーション等自己決定が出来る様に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重し希望に添い、楽しく生活できるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みを尊重している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に合わせ一緒に準備、片づけをしている。 嗜好、把握に努め、食事が楽しみになる様に努めている	食材と献立は業者から届いているが、食材をアレンジして利用者の好みに合わせ調理している。行事食は、利用者と買い物をし食事作業を一緒にしている。時には、外食や市販の弁当で変化を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し食事形態などで工夫し食事、水分の摂取量が確保できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後就寝前に個々の状態に合わせた対応をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導にてトイレでの排泄を行っている	一人ひとりの排泄状況は個別の介護記録にチェックし、職員の共有としている。羞恥心に配慮した声かけや誘導、見守りを行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。利用者に適した下着や、衛生用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動等を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の身体状況に合わせて希望に添った支援に努めている	月～金曜日の間で午前と午後に週2回の入浴を基本とし、状態によりシャワー浴や複数介助を行っている。湯加減や入浴剤、時間帯、同性介助の要望を取り入れ、寛げるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースに合わせて自室で安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方箋内容を確認し副作用、用法について理解している。又症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力を把握し、無理のない範囲で役割を持ってもらい、楽しく過ごせるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームでの外出行事や地域の行事参加、また散歩や外食をしている 家族との協力にて本人の希望に添って出かけられるように支援している	全員での外出は難しくなっているが、散歩や買い物、ドライブ、近郊の桜や紅葉の観賞、観光地の連立した鯉のぼり見物等で利用者の気分転換を図っている。天気の良い日は、前庭の椅子で日光浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さを理解し、金銭管理が出来るように努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は自由に使用できるようにしている。又、手紙のやり取りができるよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分にTVや絵画があり、季節の飾りつけ等を行って利用者が居心地良く過ごせるように工夫している	居間や食堂、廊下に窓があり、室内は明るく清掃に配慮がある。台所は居間と一体化しており、対面式なので利用者と会話をしながら調理ができる。共有部分にはひな祭りや、習字など利用者の作品、絵画等が飾られ、和みある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部のソファで利用者同士が談笑したり、廊下窓側に一人掛けの椅子を置き、独りになっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や身の周り品を持参し、本人が居心地良く過ごせるように工夫している	居室には吊り棚が設置されている。入居時には馴染みの物の持ち込みを勧めており、利用者や家族は、ベットやタンス、一面鏡など動線に配慮して置いている。飾り物や置き物などが身近にあるなど、安心感のある居場所になるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、安全で自由に生活が送れる様工夫している		